

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール
Oracle® Solaris オペレーティングシステム
インストールガイド



Part No: 821-3623-10
2010 年 11 月、Revision A

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このマニュアルの使用法	5
製品情報 Web サイト	5
関連ドキュメント	5
このドキュメントについて (PDF と HTML)	7
ドキュメントのコメント	8
寄稿者	8
変更履歴	8
Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール	9
設置の概要	9
配布メディアからの Oracle Solaris 10 OS のインストール	11
PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール	13
Oracle Solaris の更新	14

このマニュアルの使用方法

この節では、関連ドキュメント、フィードバックの送信、およびドキュメントの変更履歴について説明します。

- 5 ページの「製品情報 Web サイト」
- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 7 ページの「このドキュメントについて (PDF と HTML)」
- 8 ページの「ドキュメントのコメント」
- 8 ページの「寄稿者」
- 8 ページの「変更履歴」

製品情報 Web サイト

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールの情報については、<http://www.oracle.com/goto/blades> にアクセスし、ページの下部にある一覧で該当するサーバーモジュールをクリックします。

このサイトには、次の情報やダウンロードへのリンクがあります。

- 製品情報および仕様
- ソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード

関連ドキュメント

Oracle の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールに関連するドキュメントの一覧を次に示します。これらのドキュメントおよびその他のサポートドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6275m2?l=ja>

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールのド キュメント	Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール製品ドキュメント	検索と索引を含む、アスタリスク (*) の付いたすべてのドキュメントの統 合 HTML バージョン。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールご使用の手引き』	図によるセットアップのクイックリ ファレンス。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール設置マニュアル』*	サーバーを設置、ラック収納、およ び設定して初めて電源を入れるまで の方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールご使用にあたって』*	サーバーに関する重要な最新情報。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Oracle Solaris オペレーティン グシステムインストールガイド』*	Oracle Solaris OS をサーバーにインス トールする方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Linux オペレーティングシス テムインストールガイド』*	サポートされる Linux OS を サーバーにインストールする方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Windows オペレーティング システムインストールガイド』*	サポートされるバージョンの Microsoft Windows をサーバーにイン ストールする方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュール Oracle VM オペレーティング システムインストールガイド?』*	サポートされるバージョンの Oracle VM OS をサーバーにインストールす る方法。
	『Oracle x86 サーバー診断ガイド』*	サーバーの問題を診断する方法。
	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモ ジュールサービスマニュアル』*	サーバーの保守と維持管理を行う方 法。
Sun Disk Management のド キュメント	『Sun Blade X6275 M2 Server Module Safety and Compliance Guide』	サーバーの安全性および適合性に関 する情報。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール』*	サーバーの Integrated Lights Out Manager のバージョン固有の補足情 報。
	保守ラベル	サーバーモジュール上に表示される 保守ラベルのコピー。
Sun Disk Management のド キュメント	『Sun x64 Server Disk Management Overview』	サーバーの記憶域の管理に関する情 報。

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
x64 サーバーのアプリケーションとユーティリティのドキュメント	『Sun x64 Server Utilities Reference Manual』	サーバーにインストールされているユーティリティの使用方法。
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメント	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 管理プロトコルリファレンスガイド』	ILOM の新機能に関する情報。 ILOM 3.0 の概要。 ILOM 3.0 に関する概念情報。 Web インタフェースで ILOM を使用する方法。 コマンドで ILOM を使用する方法。 管理プロトコルに関する情報。

これらのドキュメントの一部については、前述の Web サイトで簡体字中国語、韓国語、日本語、フランス語、スペイン語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

このドキュメントについて (PDF と HTML)

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。トピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で情報が表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

注- 「ドキュメント情報」と「索引」のトピックには、関連する PDF はありません。

ドキュメントのコメント

製品ドキュメントの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。コメントを送信するには、ドキュメントサイト (<http://docs.sun.com>) の任意のページの右下にある「Feedback {+}」リンクをクリックします。

寄稿者

主な執筆者: Ralph Woodley、Michael Bechler、Ray Angelo、Mark McGothigan

寄稿者: Kenny Tung、Adam Ru、Isaac Yang、Stone Zhang、Susie Fang、Lyle Yang、Joan Xiong、Redarmy Fan、Barry Xiao、Evan Xuan、Neil Gu、Leigh Chen、Eric Kong、Kenus Lee

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2010年11月、初版

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール

この節では、Oracle Solaris 10 5/09 オペレーティングシステム (Oracle Solaris 10 OS) を Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールにインストールする手順について説明します。

Oracle Solaris 10 OS は、3 とおりの方法でサーバーにインストールできます。次の方法があります。

- ローカルの CD/DVD ドライブで Oracle Solaris 10 OS Distribution CD/DVD を使用する。
- リモートの CD/DVD ドライブで Oracle Solaris 10 OS Distribution CD/DVD または同等の ISO ファイルを使用する。ILOM の RKVM アプリケーションを使用してアクセスすることもできます。『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール設置マニュアル』の「ILOM Web インタフェースを使用してホストコンソールに接続する方法」を参照してください。
- ローカルネットワーク上の Preboot Execution Environment (PXE) サーバーに格納された PXE イメージ、またはネットワーク上のそれ以外の場所に格納されたイメージを使用する。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 9 ページの「設置の概要」
- 11 ページの「配布メディアからの Oracle Solaris 10 OS のインストール」
- 13 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール」
- 14 ページの「Oracle Solaris の更新」

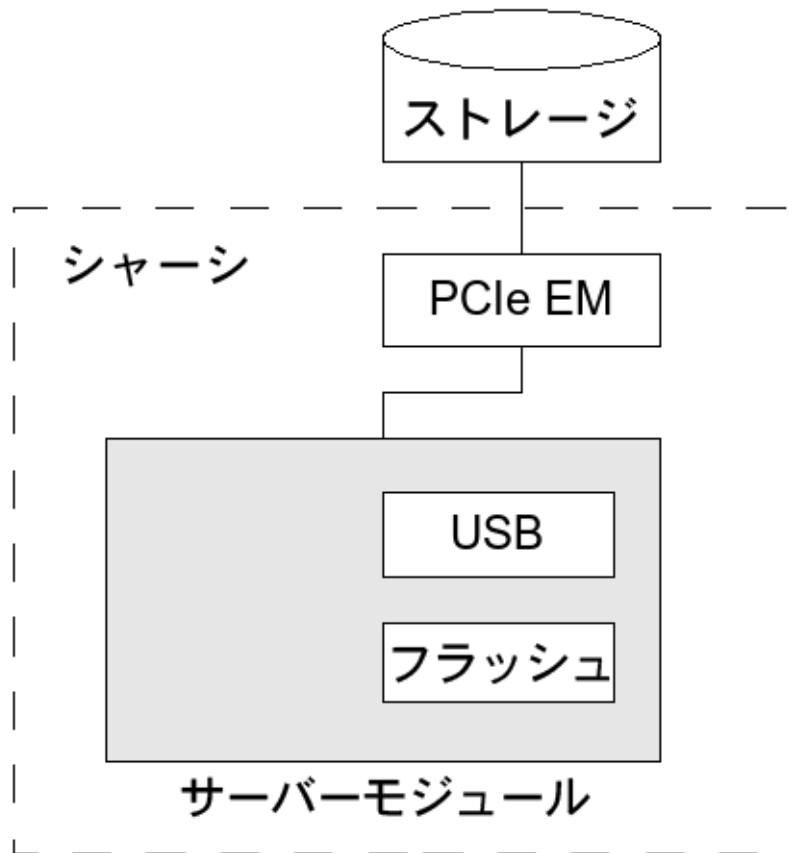
設置の概要

インストール手順と必要条件の概要を次に示します。インストールの詳細については、実際の手順を参照してください。

1. 適切なハードウェアが用意されていることを確認します。
 - Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール。
 - (RKVM セッションではなく) ローカルインストールを実行する場合は、次のデバイスが必要です。

- USB で接続したキーボードとマウス
 - USB 接続 CD/DVD ドライブ
 - モニター
 - サーバーモジュールの前面スロットに接続するマルチポートケーブル
2. PCIe EM カードに接続されたストレージデバイス上に OS をインストールする場合は、ストレージデバイスから起動できるようにサーバーを設定する必要があります。詳細は、PCIe EM のドキュメントを参照してください。
 3. OS のインストール先を決定します。

OS は、フラッシュモジュール、USB フラッシュディスク、または PCIe EM カードに接続されたストレージデバイスにインストールできます。



デバイス	情報
フラッシュモジュール	<p>サーバーモジュールには、ノードごとに Sun フラッシュモジュール (Flash Module、FMod) ソケットが含まれています。</p> <p>FMod が存在するときはディスクデバイスとして表示され、そこにオペレーティングシステムをインストールできます。</p> <p>FMod の取り付け方法については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』を参照してください。</p>
USB フラッシュドライブ	<p>サーバーモジュールには、ノードごとに1つの内部 USB が含まれています。</p> <p>USB フラッシュドライブが存在するときはディスクデバイスとして表示され、そこにオペレーティングシステムをインストールできます。</p> <p>USB フラッシュドライブの取り付け方法については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』を参照してください。</p>
PCIe EM デバイス	<p>各シャーシブレードのスロットには、2つの PCIe EM スロットが割り当てられています。2つの PCIe EM スロットのいずれかは各ノードに割り当てられています。</p> <p>PCIe EM スロットに接続されたストレージデバイスからブートを行うようにするには、PCIe EM スロットを起動デバイスとして設定する必要があります。手順については、使用している PCIe EM のドキュメントを参照してください。</p>

4. Oracle Solaris CD/DVD の Oracle Solaris 10 配布メディアのコピー、または同等の ISO ファイルを取得します。
5. OS をインストールします。次の節を参照してください。
 - 11 ページの「配布メディアからの Oracle Solaris 10 OS のインストール」
 - 13 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール」
6. OS のパッチ適用と更新を行います。14 ページの「Oracle Solaris の更新」を参照してください。

配布メディアからの Oracle Solaris 10 OS のインストール

Oracle Solaris では、使いやすいグラフィカルインタフェースを使用して、オペレーティングシステムのインストールと設定を行うことができます。CD/DVD を使用してローカルに接続された CD/DVD ドライブから Oracle Solaris をインストールする場合でも、RKVM を使用してリモートに接続された CD/DVD ドライブの ISO ファイルから Oracle Solaris をインストールする場合でも、インストール手順は基本的に同じです。

▼ 配布メディアから Oracle Solaris OS をインストールする方法

- 1 **CD/DVD ドライブを接続します。**

USB に接続された CD/DVD ドライブを使用している場合は、次の操作を実行します。

 - a. **USB 接続 CD/DVD ドライブを、マルチポートケーブルの USB ポートに接続します。**
 - b. **Oracle Solaris OS Distribution CD/DVD を、サーバーモジュールに接続された CD/DVD ドライブに挿入します。**

RKVM を使用する場合は、ILOM ドキュメントの説明に従って、RKVM を使用して CD/DVD ドライブまたは同等の ISO イメージをマウントします。
- 2 **システムの電源を入れます。**
 - a. **POST 中に F8 を押して BBS ポップアップメニューにアクセスします。**

起動デバイスのリストが表示されます。
 - b. **起動リストから「CD/DVD drive (CD/DVD ドライブ)」を選択します。**
 - USB 経由で接続している場合は、「USB CD/DVD (USB CD/DVD)」を選択します。
 - RKVM セッションを使用して接続している場合は、「Virtual CD/DVD (仮想 CD/DVD)」を選択します。

選択したメディアからサーバーがブートし、ブートメニューが表示されます。
- 3 **Oracle Solaris のドキュメントを参照して、残りのインストールプロセスを実行します。**

注-インストールしたファイルの中に開発ツールが含まれていることを確認します。これらの開発ツールは、あとでドライバをインストールするときに必要になります。

- 4 **オペレーティングシステムを更新します。**

14 ページの「[Oracle Solaris の更新](#)」を参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール

次の手順では、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールを PXE ネットワーク環境から起動する方法について説明します。

注 - JumpStart を使用すると、複数のサーバー上で Oracle Solaris オペレーティングシステムを最初に設定する際の、手動作業の一部または大部分を省略できます。JumpStart イメージの使用方法については、『Oracle Solaris 10/ インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』を参照してください。

▼ ネットワーク PXE ブートを使用して Oracle Solaris 10 をインストールする方法

- 1 次の Oracle Web サイトから、Sun Blade X6275 M2 Oracle Solaris ドライバパッケージをダウンロードします。

<http://www.oracle.com/goto/x6275m2>

- 2 必要なドライバを PXE イメージに追加します。

注 - この時点では、Oracle Solaris 用のドライバは必要ありません。

- 3 PXE クライアントを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、PXE クライアントの電源を入れます。
PXE クライアントは、ソフトウェアのインストール先となる Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールです。
- 4 BIOS POST の実行時に、F8 キーを押して任意の NIC インタフェースを選択します。
PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。
- 5 **boot:** プロンプトで、PXE サーバーに Oracle Solaris OS イメージをインストールした際にイメージに付けたラベルを入力します。
インストールイメージがサーバーモジュールのターゲットノードにダウンロードされます。
- 6 システムプロンプトに従って、オペレーティングシステムをインストールまたは設定します。

- 7 オペレーティングシステムファイルを更新します。
14 ページの「Oracle Solaris の更新」を参照してください。

Oracle Solaris の更新

システムに適したファームウェアまたはパッチをダウンロードして Oracle Solaris を更新するには、次の Web サイトにアクセスします。

<http://www.oracle.com/goto/x6275m2>